

# 生徒の自己肯定感を育てる組織の要素

## 学年会が校務を運営する組織になってしまっている

株式会社ヒューマン・リンク

〒604-8141 京都市中京区泉正寺町 328 番地 西川ビル 3F TEL.075-212-7015

### 受験生のニーズは多様化から

### 一極化に移行する可能性

前回、受験生のニーズは「自身の自己肯定感を育む学校」へと一極化しつつあることをお伝えしました。そのことを踏まえ、募集広報活動も大きく変化しようとしています。

入学前の期待値だけを高め、入学後に期待を裏切ることになれば、在校生のロイヤリティは急速に低下します。ではどうすれば生徒の自己肯定感を育むことができるのでしょうか。

### 「部活動から担任へ」

### 承認の場が見直される

自己肯定感とはどのようなプロセスを経て高まるのでしょうか。ここでカギとなるのは

- ・自信を持てる領域が複数存在する
- ・自信を得るために継続的に努力している
- ・自身を承認してくれる存在がある

という3点だと考えられます。

自信を持てる領域が単一だと自己肯定感ではなく「自己愛」を助長すると言われます。

同様に本人の努力を伴わない承認も自己愛を助長します。「継続的な努力」「自身を承認してくれる存在」がカギとなるため、これまでは自己肯定感を育成する場として部活動が利用されてきました。が、部活動だけでは複数の「自信」を得にくいいため、本当の意味で自己肯定感を育むことは難しいのです。

### 「人」としての強みを多面的に承認する

### 担任が変わることで学校生活は一変する

以前のニュースレターでも紹介しましたが、日本の中高生の自己肯定感が先進国の中でかなり低い水準にあると言われる原因は

- ・部活動と勉強だけが自己肯定感のベースとなっている
- ・「人」としての多面的な強みが自己肯定感のベースになっていない

ことに起因します。皆さんの学校の建学の精神で求めていることは「部活動でレギュラーになること」と「勉強で良い成績を得ること」なのでしょうか。

建学の精神とは自校に入学した生徒が卒業時に修得してほしい「人としての強み」を示しているはずですが、実際にはその「強み」を個々の生徒に「自覚」させる場も無ければ、「承認」する場も存在しません。

では「誰」が「どのような方法」で「多面的な強み」を「承認～自覚」させれば良いのでしょうか。その答えが「担任」にあります。そして担任のスキルアップの場として「学年会」と「学年主任」の役割も大きく変化しているのです。

### 本日のワンポイント

生徒の自己肯定感の育成を部活動に一任してはいけない  
自己肯定感を育む学校にするポイントは担任と学年会にある  
建学の精神は生徒の自己肯定感を育む大切な材料である

### ◇ 今月のご案内 ◇

### 「学校（学年）づくりと生徒募集セミナー（9月／東京）」の

ご案内資料をご希望の方は以下ご記入の上ご返信ください。

FAX 075-212-7016

貴校名

電話

お名前

お役職